

大仙市アーカイブズ ニュースレター 第8号



大仙市マスコットキャラクター
まるひちゃん

まもなく開催 新着資料展 ～土木工学の権威 物部長穂～

協和町出身の物部長穂（明治21〈1888〉～昭和16〈1941〉）は、大正、昭和初期の日本を代表する土木・治水、水理、耐震学の第一人者です。河川工学・ダム工学の分野で特に功績があり、その研究は、現代の日本のダム設計や治水技術の基礎となっています。

物部長穂に関する資料は、その一部を物部長穂記念館でパネル展示していますが、遺族から御寄贈いただいた資料は約1,500点にのぼります。それらの資料を地域共有の財産として保存・活用するための整理作業を大仙市アーカイブズで進めてきました。

今回の展示は、長穂が遺した日記、論文、著書のほか、関東大震災の調査の際の写真や調査書、教授として指導した学生の論文などから、郷土が生んだ偉人の足跡をたどります。

新着資料展 物部長穂（もののべながほ）関係資料

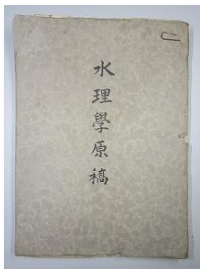
期間：4月6日（火）～6月26日（土）

場所：大仙市アーカイブズ展示室

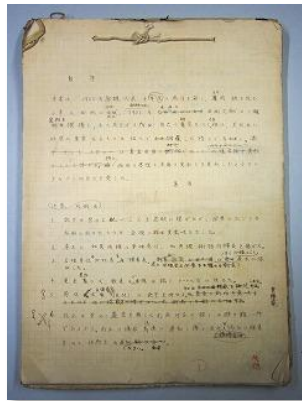


物部長穂

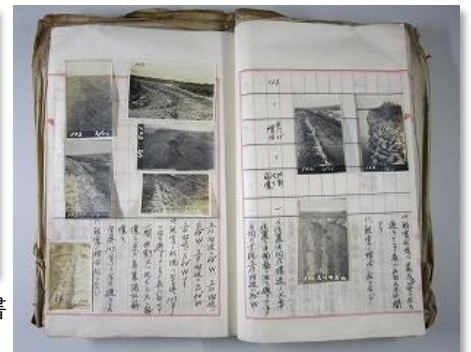
協和地域出身の土木学者。
生家は女性守護として知られる唐松神社。



自身の著書『水理学』
（昭8年刊行）の原稿



関東大震災の調査書
（大正12年）



令和2年度 公文書の評価選別結果 ～市政の記録・市民の権利を後世に～

令和2年度の公文書評価選別結果をお知らせします

公文書には職員が利用するための保存期間が定められ、期間が過ぎると廃棄されますが、廃棄前に、市の歴史を伝えるものや、市民の権利の証明として残さなければならないものを選別する作業が「評価選別」です。

評価選別で保存すべきと判断された公文書は、大仙市アーカイブズで永久的に保存され、アーカイブズ内で閲覧できます。土地の権利確認や研究等への市民利用のほか、市役所の業務にも利用され、過去の事例を参照したり、権利関係を確認するための証拠資料となっています。

評価選別結果（令和2年度）

冊数	7,724冊
保存	451冊
廃棄	7,273冊
移管割合	5.8%

閲覧数（令和2年度）

市民利用	1,163点
行政利用	203点

※2月末までの集計です。

近代秋田を代表する文化人 田口松圃 ～ただいま資料整理中～

12月、大曲図書館に寄贈されていた「田口松圃（しょうほ）資料」が、アーカイブズに所管替えとなりました。現在、整理作業を進めています。

田口松圃（本名：謙蔵・明治16〈1883〉～昭和31〈1956〉）は、幼少から絵や文学にたけ、東京専門学校（現早稲田大学）で坪内逍遙（つぼうちしょうよう）に文学を学んだ、明治から昭和の秋田県を代表する文化人です。高浜虚子、柳田国男、河東碧梧桐などとの交流があったことわかる書簡や手記などが多数残されています。



田口松圃

明治16年、大曲に生まれる。東京専門学校で坪内逍遙に師事し、帰郷後の明治39年に俳誌「まるこ川」、翌年文芸誌「白虹」を創刊した。仏画鑑賞にも熱心で、多数の美術家や俳人・文人と交流した。大曲町長（大正14～昭和6年）や県会議員（昭和12～14年）のほか、仙北新報社（現在の秋田民報社）社長も務めた。



松圃の日記

22歳だった明治39年（1906）から72歳で亡くなる昭和31年（1956）までの日記が残されています。近代の大曲仙北における文化の中心的人物であった松圃の日常を通して、近代の様子を多面的に捉えることができる貴重な資料です。

田口松圃資料で繋がった“点”と“点”

10数年前、太田町史編さん事業を担当していた時のことです。町民から「早稲田大学の博物館（坪内博士記念演劇博物館）に昭和初期の横沢ささらの獅子頭が展示されていた」との情報が寄せられたことがありました。同博物館にその沿革を照会しましたが詳細は不明で、横沢ささらの獅子頭が何故早大博物館にあるのか、その情報は“点”として宙に浮いたままとなっていました。

ところが、田口松圃資料の整理を進める中で、新しい発見がありました。同博物館から田口松圃に宛てた書簡（昭和4年3月8日付）に、ささらの獅子頭の寄贈に対する御礼が述べられていたのです。

坪内博士（坪内逍遙）は、古今の演劇の研究者であり、松圃の師でもありました。同博物館はこの書簡の翌年に開館したもので、当時、開館に向けた展示の準備が進められていたと容易に推測できますし、坪内と松圃の関係が獅子頭の寄贈に結びついたと思われます。寒村に引き継がれてきた郷土芸能のシンボル（獅子頭）が、松圃という一流の文化人を介して、中央の研究者の目に留まったに違いありません。

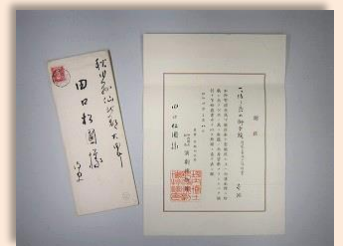
松圃の日記には、明治42年、大正3・4年、昭和2・9・11年に「ささら」の記述や考察が残されており、昭和2年10月14日の条には倉田五郎左衛門（横沢ささらの世話人か？）に書簡を送ったことが記されていました。

“早大博物館の獅子頭”と“早大博物館からの書簡”、そして“松圃の文化・芸能への造詣の深さを伝える日記”これらの点が結ばれ「歴史の線」となった瞬間でした。そして、不思議なことに松圃資料の整理が始まった昨年12月、偶然にも横沢ささらの縁起に関する近世の資料（卷子本）が、地元の関係者から当館に寄贈され、時同じくして内容解読を終えることができました。

先人たちが残してくれた資料に不思議な縁とロマンを感じながら、地域史料の持つ魅力を再確認したこの冬の資料整理となりました。（細川）



博物館に展示されている横沢ささらの獅子頭



坪内博士記念演劇博物館からの書簡



横沢ささらの縁起に関する卷子本

